

福岡県医発第989号(地)

平成17年8月19日



各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 竹 嶋 康 弘



「平成17年度中央研修会募集要項(後期)」のご案内について

標記研修会が、下記のとおり開催される旨、地域社会振興財団より通知がありましたので、ご連絡申し上げます。

なお、前期の案内については、本会宛通知がなかったことを申し添えます。

記

【研修名】

【研 修 期 間】

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 看護師長研修会 | 10月 5日(水)～10月 7日(金) |
| 2. 救急医療研修会 | 10月12日(水)～10月13日(木)(申込受付終了) |
| 3. 放射線技師研修会 | 10月26日(水)～10月28日(金) |
| 4. 健康教育・ヘルスプロモーション | 12月16日(金)～12月18日(日) |
| 5. 保健活動研修会 | 1月25日(水)～ 1月27日(金) |
| 6. 在宅リハビリ研修会 | 2月 3日(金)～ 2月 5日(日) |
| 7. 臨床医学研修会 | 2月24日(金)～ 2月26日(日) |

※研修会場は全て「地域医療情報研修センター(自治医科大学構内施設)」

(〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-160) となっております。

小郡三井医師会より

担当理事 永田正和



平成17年8月1日

各都道府県医師会・歯科医師会の長 様
関係連合会の長 様

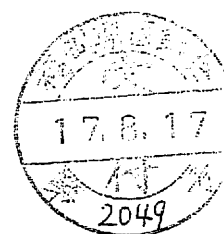
(財) 地域社会振興財団
理事長 吉 田 弘 正
(財) 地域社会振興財団
地域社会健康科学研究所
所 長 高 久 史 麿
(公印省略)

「平成17年度中央研修会募集要項（後期）」のご案内について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団の運営につきましては、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、「平成17年度中央研修会の募集要項（後期）」（10月～2月開催分）を作成しましたので、別添のとおりご案内申し上げます。 つきましては、ご多忙中のところ誠に恐縮とは存じますが、貴所管の関係職員の方々への周知方並びにご参加について特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。



平成 17 年度

中央研修会募集要項（後期）

- 保健・医療・福祉従事者の人材育成、知識・技術・情報の提供 -

保健・医療・福祉の明日を見つめる

財団法人 地域社会振興財団

目 次

■ (財)地域社会振興財団について	1
■ 中央研修会について	2
■ 平成17年度中央研修会(後期)の概要 (開催月:10月~2月)	
. 看護師長研修会	3
. 救急医療研修会	4
. 放射線技師研修会	5
. 健康教育・ヘルスプロモーション研修会	6
. 保健活動研修会	7
. 在宅リハビリ研修会	8
. 臨床医学研修会	9
■ 中央研修会の申込方法及び宿泊等について	10
■ 様式・・・平成17年度中央研修会受講申込書	
■ 参考・・・平成17年度中央研修会一覧表	

■（財）地域社会振興財団について

設立の趣旨

地域社会振興財団は、へき地などの地域社会が抱える諸問題について、基礎的・総合的な研究を行い、そこで生活する人々が生きがいをもって健やかに暮らすことができる地域社会づくりに貢献し、地方自治の基礎の充実に寄与することを目的として、１９７２年１２月に「へき地振興財団」の名称で設立された公益法人です。

以来、経済社会の動きを見つめながら、そのニーズに沿った事業を行ってまいりましたが、近年地域住民の方々の高齢化が急速に進行し、地方公共団体では、これに対する適切な施策が重要な課題となっていることに着目して、これを支援する事業に取り組むことになり、名称を１９８９年４月に「地域社会振興財団」と改め、現在に至っております。

事業概要

§ 調査・研究事業

へき地などの地域住民の疾病の特異性、病態生理、その原因等を明らかにするとともに、それに対する有効な対策について研究することを目的として、１９７３年４月に環境医学部門、血液医学研究部門、病態生理研究部門、情報システム研究部門の４部門からなる「へき地生態科学研究所」を設置し、１９８９年５月には同研究所大宮支所を設立しました。

その後、地域社会における高齢化、少子化の急激な進行や介護保険制度の実施をはじめとする保健・医療・福祉を統合した新たな施策に対するニーズに応え、併せて全国各地の地域医療の現場に対する支援を強化するため、１９９８年４月に保健科学研究部門、健康福祉計画研究部門の２部門を加え、その名称を「地域社会健康科学研究所」と改め、現在に至っております。

§ 研修事業

当財団では、自治医科大学と密接な連携のもとに、地方自治体や地域医療関係団体等が推進する保健・医療・福祉事業のそれぞれの分野からのニーズに応えるべく、１９７５年より、研修会を開催しています。

研修会の受講対象者は、地域医療に従事する医師、保健師、看護師、医療技術者、救急隊員などの地域医療従事者や地域住民を対象としており、「中央研修会」と称し、自治医科大学内にある地域医療情報研修センターで、また、「現地研修会」と称し、全国各地で、合せて年間３０回程度の研修会を開催しています。

§ 交付金交付事業

栃木県から発行される「地域医療等振興自治宝くじ」(通称＝レインボーくじ)の収益金を財源として「長寿社会づくりソフト事業費交付金交付事業」、「人材育成事業」及び「整備拡充事業費交付金交付事業」を実施しています。

長寿社会づくりソフト事業費交付金交付事業として、地方自治体が積極的に取り組んでいる長寿社会づくりのためのソフト事業に対し、都道府県を対象とする一般事業と都道府県及び市町村を対象とする特定事業の２種類の交付金を交付しています。

人材育成事業として、保健・医療・福祉事業に携わる医師、保健師及び事務の市町村職員等を対象に、保健・医療・福祉事業をプランニングするために必要な基礎的・専門的知識及び企画立案能力の習得を目的に「健康福祉プランナー養成塾」を開催しています。また、研修事業も、この一環として行っている事業のひとつです。

整備拡充事業費交付金交付事業として、我が国のへき地等地域医療の先駆的な役割を担っている自治医科大学の教育・研究に欠くことのできない施設設備や教育研究機器などの整備拡充を支援するために交付金を交付しています。

§ 日本自転車振興会補助事業

当財団の地域社会健康科学研究所の建物及び研究機器は、日本自転車振興会からの補助金により整備しています。

特に研究機器につきましては、当財団の主事業である調査・研究事業を推進する上で必要であり、高度な研究を維持するとともに、毎年度成果をあげております。

なお、「地域社会健康科学研究所研究報告書」として取りまとめ発刊しています。

当財団は、今後とも、このような事業を通じ、地域社会における保健・医療・福祉事業の向上に貢献していく所存でございますので、ご協力ご支援の程よろしくお願いいたします。

■中央研修会について

当財団の研修事業のひとつである中央研修会は、地域社会において保健・医療・福祉事業に携わる方々が、最新の医学知識と医療技術を習得することにより、地域住民の方々が安心して生活できるような地域社会にすることを願い、実施しています。

今回は、平成１７年度の後期（１０月～２月）に開催します研修内容等についてご案内させていただきますので、是非ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

平成17年度中央研修会後期のご案内

・看護師長研修会

【テーマ】スタッフ育成のためのコーチング

【ねらい】よりよい看護を提供するためには、個人が自分のキャリアにあった目標を立て、ひとつ一つクリアすることで目標達成を図り、ケアの質を向上させることである。そのためにはスタッフの育成が重要となる。看護管理者としてコミュニケーションを効果的に行い、自律した専門職として成長できるための教育方法の関わり方を学ぶ。

【研修期間】平成17年10月5日(水) 9:00 ~ 10月7日(金) 15:10

【対象者】看護単位の責任者とその任にあたる者

【定員】50名

【講義内容】

講義名		講師名
1日目	リーダーに求められるもの	国際医療福祉病院 病院長 佐藤 郁夫
	看護管理とは	自治医科大学附属病院看護部 部長 菊池 睦子
	自治医大における看護情報システムについて	自治医科大学附属病院医療情報部 師長 大柴 幸子
	施設見学	自治医科大学附属病院看護部
2日目	スタッフ育成のためのコーチング	東京女子医科大学大学院看護学研究科 助教授 諏訪 茂樹
	スタッフ育成のためのコーチング	
	スタッフ育成のためのコーチング	
3日目	スタッフ育成のためのコーチング	
	スタッフ育成のためのコーチング	

この研修会では、「看護にいかすリーダーシップ 状況対応とコーチングの体験学習」(発行元 医学書院 著者 諏訪茂樹)を使用しますので、お持ちの方はご持参してください。

また、お持ちでない方は、研修会当日販売いたしますので、予め受講を申し込む際に「平成17年度中央研修会受講申込書(後期)」のその他・ご要望の欄に【本希望】とご記入ください。(ご記入がない場合は、ご用意できないことがあります。)

【申込期間】平成17年8月1日(月) ~ 9月9日(金) 【当日消印有効】

・救急医療研修会

***（申込受付は終了しております）**

【 テーマ 】 質の高いプレホスピタルケア

【 ねらい 】 救急救命士が行うプレホスピタルケアには、除細動や気管挿管、薬剤投与などの医療行為が導入されつつあるが、これらは全てメディカルコントロール（MC）に基づいて医療の質が保証されるたてまえになっている。実際のMCには各地域の実状が考慮されるが、それぞれの地域においてよりよいMC体制を構築し、質の高いプレホスピタルケアを行う必要がある。そのために医療知識と病院内の医療スタッフとのコミュニケーションの仕方をもう一度確認し、よりよいプレホスピタルケアを行うにはどのようなアクションを起こすべきかを考える機会を持つことをこの研修会のねらいとする。具体的には、BLS、JPTECで標準化されている心肺蘇生と外傷患者のプレホスピタルケアに関する事例の検討、ウツタイン方式に基づいたMC検証票記載のテクニックと意味のあるディスカッションの仕方、症例検討会の際のプレゼンテーションの技法等を講義とディスカッション形式で学びながら、質の高いプレホスピタルケアを行うには現在何が欠けているのかを理解し、今後の活動に直結する知識を身に付けて、地域のプレホスピタルケアの質の向上に貢献できるようにしたい。

【 研修期間 】 平成17年10月12日（水）9：00～ 10月13日（木）17：10

【 対象者 】 救急救命士

受講希望者には、あらかじめ自分が経験したディスカッション用の事例報告を提出してもらい、応募者多数の場合はその内容で選抜する。

【 定員 】 24名

【 講義内容 】

講義名		講師名
1 日目	症例検討 1 「CPAの症例（現場でのBLS）」	自治医科大学救急医学 講 師 河 野 正 樹
	症例検討 2 「外傷の症例（現場でのJPTEC）」	自治医科大学救急医学 助 教 授 加 藤 正 哉
	プレゼンテーション技法 講義 グループ実習	自治医科大学救急医学 助 教 授 山 下 圭 輔
	「救命士の業務拡大に関する最新の話題」	自治医科大学救急医学 教 授 鈴 川 正 之
2 日目	症例検討 3 「救急心臓血管治療（ACLS）の症例」	自治医科大学救急医学 講 師 長 谷 川 伸 之
	「理想的なMC体制のあり方」 講義 「MC体制構築のために消防が行動すべきことは何か？」 グループ討論 全体討論	日本医科大学付属千葉北総病院 松 本 尚
	「所属での教育のすすめ方」 講義 全体討論	東京消防庁 救急指導課長 横 山 正 巳

【 申込期間 】 平成17年6月1日（水）～ 7月29日（金） 【必着】

放射線技師研修会

【 テ ー マ 】 最近の放射線技術

【 ね ら い 】 今日の医療で国民の求めている「患者中心の医療」を、より発展させ信頼を高めていくためには放射線技師としての重要性を自覚しなければならない。そのため技術の向上と広範囲な知識の修得、パーシェントケアの実践を目的とした研修を行う。

【 研 修 期 間 】 平成17年10月26日(水) 9:00 ~ 10月28日(金) 14:40

【 対 象 者 】 診療放射線技師

【 定 員 】 50名

【 講 義 内 容 】

講義名		講師名
1日目	放射線技師のための診断知識 (骨、関節領域のMRI)	自治医科大学放射線医学 教 授 杉 本 英 治
	医療被曝と防護	自治医科大学RIセンター 管理主任 菊 地 透
	個人情報保護法について (医療従事者としてこれだけは知っておきたい)	第一製薬医薬学術部 深 堀 幸 次
	病院情報システム (当院の紹介)	自治医科大学附属病院中央放射線部・医療情報部 副技師長 増 淵 二 郎
	グループ討議1・2	自治医科大学附属病院中央放射線部 技 師 長 寺 門 秀 司 副技師長 増 淵 二 郎 副技師長 神 山 辰 彦
2日目	放射線技師のための診断知識 (血管系、IVR)	自治医科大学放射線医学 助 手 中 田 学
	放射線治療の現況	自治医科大学放射線医学 教 授 仲 澤 聖 則
	リスクマネジメント	自治医科大学附属病院看護部・医療安全対策部 副 部 長 葉 真 寺 美 佐 子
	放射線技師のための診断知識 (最新CT技術の臨床応用)	聖マリアンナ医科大学病院放射線科 講 師 小 林 泰 之
	放射線技師のための診断知識 (PET-CTの臨床)	昭和大学名誉教授 総合南東北病院画像診断部門 センター長 宗 近 宏 次
	放射線技師のための臨床診断 (診療保険制度について)	大田原赤十字病院放射線科 部 長 水 沼 仁 孝
3日目	業務中、患者急変時の対応 (実習、心肺蘇生法)	自治医科大学救急医学 助 教 授 加 藤 正 哉
	地域医療との取り組み	西吾妻福祉病院 管 理 者 折 茂 賢 一 郎
	放射線技師のための診断知識 (救急疾患の画像診断)	済生会宇都宮病院放射線科 医 長 本 多 正 徳

【 申 込 期 間 】 平成17年8月1日(月) ~ 9月30日(金) 【当日消印有効】

健康教育・ヘルスプロモーション研修会

【テーマ】主体的なライフスタイル実践のための健康教育手法の実践展開

～セルフエフィカシーとピアカウンセリングに焦点を当てて～

【ねらい】少子・高齢化を背景として、「健康日本21」や「健やか親子21」を推進するための「健康増進法」も制定され、改めて人々が身体的、精神的、社会的に良好な状態であるウェルビーイングやQOL(生活の質)の向上をめざした新しい健康教育が求められています。

本研修会は、地域・職域・医療・学校の各々の現場で、対象者のみならず健康教育者自身が、“これならできそう”とセルフエフィカシー(自己効力感)に焦点をあて、主体的なライフスタイル実践のための健康教育が即実践展開できるように、その理論と実践手法を学びます。

そのために内容をバージョンアップし、まずは安心できる信頼関係の中でQOL探しのエンカウンターを体験学習できるように計画しました。その後、発見したQOL(豊かな人生/自己実現)の実現を目指し、セルフエフィカシーを高めながら行動変容していく行動計画のプロセスを、ピア(仲間)のサポートとともに実習していただくことにしました。仲間として寄り添って行動変容を支えるためのピアカウンセリングマインドとスキルを習得することも加えました。

新しく受講される方はもとより、今まで受講された方もぜひ再受講されることをお勧めいたします。

【研修期間】平成17年12月16日(金)9:00～12月18日(日)15:30

【対象者】都道府県・政令市・市町村の保健・福祉専門職(医師・保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士・事務職・理学療法士など)

企業体・健康保険組合などの産業衛生関係者(医師・保健師・看護師・栄養士・事務職など)

健康教育を推進する医療機関(病院・健診機関・公共の団体・組織関係者など)

小・中・高・大学などの健康教育を教授・研究する者(保健体育・養護教諭・専門学校・短・大学教員)

【定員】60名

【講義内容】

講義名		講師名
1日目	オープニング・エクササイズ	自治医科大学看護学部 教 授 高村 寿子
	ヘルスプロモーションとエンパワーメント ～人生のゴール：QOLの実現を目指す力をつけるために～	
	ヘルスプロモーションと看護 ～QOLの実現を目指す看護の視点から～	自治医科大学看護学部 教 授 松田 たみ子
	ライフスタイル修正へのアプローチ ～主体的行動変容とセルフエフィカシー(自己効力理論)～	自治医科大学看護学部 教 授 高村 寿子
2日目	ライフスタイル修正へのアプローチ ～患者教育の新展開～	自治医科大学看護学部 教 授 中村 美鈴
	ライフスタイル修正へのアプローチ ～自分探しはQOL探し～ ～初めてのエンカウンターを体験してみよう～	自治医科大学看護学部 教 授 高村 寿子
	ライフスタイル修正へのアプローチ ～ピア:仲間カウンセリングの理念とスキル～ ピア:仲間とは ピアカウンセリングとは ピアカウンセリングの基本概念 ピアカウンセリング8つの誓約	(財)井之頭病院 看 護 師 渡辺 純一
	ピアカウンセリング・スキル演習 ～アクティブリスニング～ 基本的向き合い方 オープンクレーション パラフレーズ 感情と向き合う 要約/統合スキル	
	コ・カウンセリング実習(2人組)	
3日目	コ・カウンセリング実習ふりかえり ピアサポートへの活用に向けて	自治医科大学看護学部 教 授 高村 寿子
	ライフスタイル修正へのアプローチ ～セルフエフィカシー介入による健康教育プログラムの展開～ エンカウンターを体験しながら、プログラムの前半を体験してみよう プログラム後半を体験してみよう フォローアッププログラムを体験してみよう まとめとクロージング	自治医科大学看護学部 教 授 高村 寿子 他

【申込期間】平成17年8月1日(月)～11月18日(金) 【当日消印有効】

・保健活動研修会

【 テ ー マ 】 保健活動における調査研究の進め方 ～よりよい調査・研究を行うために～

【 ね ら い 】 日常の保健活動を通して、必要な調査・研究の方法を習得する。既存資料の解析の他に、明確な目的に基づいて適切な計画（対象の設定、サンプルサイズの決定、調査票のデザイン、内容、質問項目設定のしかた、回収方法など）方法と結果の解析として単純集計、クロス集計、推定、検定、年齢、調整などデータのまとめ方として疫学・統計の基本を学ぶ。情報の発信として行った調査研究を論文にまとめたり、学会発表や住民に対してプレゼンテーションを行う技術を習得する。地域診断や事業評価への応用、将来の研究に役立てる。

【 研 修 期 間 】 平成18年1月25日（水）9：00 ～ 1月27日（金）16：00

【 対 象 者 】 保健所・市町村・事業所などで保健活動に携わる保健師
看護師、保健師、学生などで研究に携わる予定の人
公衆衛生に携わる医師

【 定 員 】 40名

【 講 義 内 容 】

講義名		講師名
1日目	保健活動における調査研究のアウトライン	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教 授 中 村 好 一
	保健情報の検索 ～インターネットと医学中央雑誌(演習を含む)～	自治医科大学看護学部 教 授 渡 邊 亮 一
	調査研究と公衆衛生	埼玉県立大学 学 長 柳 川 洋
2日目	統計分析の基礎	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 講 師 大 木 い ず み
	新規調査の方法	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助 手 上 原 里 程
	グループワーク	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助 教 授 尾 島 俊 之 他
	調査研究の実例（事例検討）	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教 授 中 村 好 一 他
3日目	表計算ソフトエクセル他（演習）	パナソニック チューター 原 久 子 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助 教 授 尾 島 俊 之 他
	パソコン基本操作による統計	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助 手 渡 邊 至
	研究成果のまとめ方 - 地域からの発信 -	山梨大学大学院医学工学総合研究部 教 授 山 縣 然 太 郎
	総括と質疑応答	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教 授 中 村 好 一 他

【 申 込 期 間 】 平成17年10月3日（月） ～ 12月22日（木） 【当日消印有効】

・在宅リハビリ研修会

【 テ ー マ 】 使える在宅リハビリ実践法 - 障害の理解と自立支援 -

【 ね ら い 】 病院や施設で適切なリハビリテーションを受けずに在宅生活を始めた患者の多くは、廃用症候、あるいは誤用症候等により徐々に自立生活に困難を来し、介護を要する状態となる。機能や能力が低下した方に対しての介護サービスは必ずしも機能や能力を向上させる対応が適切になされているとは思えないのが現状である。リハビリテーションと言う理念が医療に導入されて40年が経過したが、リハビリテーションと機能訓練をイコールと捉えている医療従事者が多い。

この研修では、本来のリハビリテーションの意義を理解すると共に障害を持った方の障害特性を知り、適切な生活支援、介護者支援ができる医療関連職種者の育成を目的に行いたいと考えています。

【 研 修 期 間 】 平成18年2月3日(金) 9:40 ~ 2月5日(日) 11:40

【 対 象 者 】 医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、その他

【 定 員 】 30名

【 講 義 内 容 】

講義名		講師名
1日目	リハビリテーション - 理念と技術 -	マロニエ医療福祉専門学校 副 校 長 谷 岡 淳
	在宅での褥瘡対策	自治医科大学附属病院看護部褥瘡対策委員 WOC認定看護師 太 田 信 子
	在宅リハビリテーションの依頼、連携の取り方	西吾妻福祉病院 管 理 者 折 茂 賢 一 郎
	グループディスカッション	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 室 長 金 子 操
2日目	在宅呼吸リハビリテーション (呼吸理学療法の実践)	秋田市立秋田総合病院リハビリテーション科 副 技 師 長 高 橋 仁 美
	在宅片麻痺患者の廃用症候群と理学療法	マロニエ医療福祉専門学校医療学部 学 部 長 菅 原 和 幸
	障害者の生活支援 (障害別自助具)	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 主任作業療法士 黒 淵 永 寿
	転倒患者への対応 (転倒予防から生活再建まで)	博愛会 菅間記念病院リハビリテーション科 技 師 長 金 谷 さ と み
	グループディスカッション	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 室 長 金 子 操
3日目	家庭で使える福祉用具	老人保健施設 生きいき倶楽部 理 学 療 法 士 江 連 素 実
	まとめ(全体の質疑応答)	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 室 長 金 子 操

【 申 込 期 間 】 平成17年11月1日(火) ~ 平成18年1月6日(金) 【当日消印有効】

・臨床医学研修会

【 テ ー マ 】 第一線医療に必要な知識と技術

【 ね ら い 】 これから地域で第一線医療に従事しようとする若手医師に必要な知識、技術などを再発見する。

【 研 修 期 間 】 平成18年2月24日 (金) 12:30 ~ 2月26日 (日) 11:30

【 対 象 者 】 第一線医療機関に赴く医師

【 定 員 】 50名

【 講 義 内 容 】 * 講義の順番が変更になることがあります。

講義名		講師名
1日目	開 講 式	自治医科大学 学 長 高 久 史 磨
	整形外科編	自治医科大学整形外科学 教 授 星 野 雄 一
	皮膚科編	自治医科大学皮膚科学 助 教 授 村 田 哲
	救急医学編	自治医科大学救急医学 助 教 授 加 藤 正 哉
2日目	医療安全編 - 安全な医療を提供するために -	自治医科大学附属病院医療安全対策部 助 教 授 長 谷 川 剛
	神経内科編	自治医科大学内科学神経内科学部門 教 授 中 野 今 治
	介護保険・在宅診療編	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 助 手 鶴 岡 浩 樹
	循環器内科編	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 助 教 授 黒 木 茂 広
	地域立脚型リサーチ編 - 地域におけるリサーチの実践 -	西予市立野村病院 副 院 長 川 本 龍 一
	X線撮影編 - X線撮影の基本/仕方 -	自治医科大学附属病院中央放射線部 副技師長 神 山 辰 彦
3日目	小児科編	自治医科大学小児科学 講 師 桃 谷 孝 之
	感染症編 - 感染症管理の基礎知識 -	自治医科大学附属病院感染制御部 部 長 森 澤 雄 司

【 申 込 期 間 】 平成17年11月1日 (火) ~ 平成18年1月29日 (金) 【当日消印有効】

中央研修会の申込方法及び宿泊について

受 講 料

25,000円（中央研修会一律） *研修会初日の受付時に「現金」でお支払いください。

研 修 会 場

地域医療情報研修センター（自治医科大学構内施設）

《所在地》〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-160

申 込 方 法

1. 別添「中央研修会受講申込書」に必要事項を記入の上、「郵送」によりお申込みください。
2. 受講決定次第、必要書類等を返送いたしますので、返送先をご記入いただいた返信用封筒（角2=A4サイズが折らずに入るもの）を同封してください。（切手貼付不要）
また、複数の方がお申込みの場合には、別添「中央研修会受講申込書」をコピーしてご使用ください。

《宛 先》

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-160 （財）地域社会振興財団 研修課

《問合せ先》

TEL 0285-58-7436 FAX 0285-44-7839

E-mail fdc@jichi.ac.jp URL <http://www.jichi.ac.jp/fdc/>

受 講 決 定

1. 受講決定は、各研修会の定員に対し、原則として受講申込書受付け順で行いますのでご了承ください。
2. 各研修会の定員を超えた場合は、同施設で複数の受講申込者についても、調整させていただきますので、併せてご了承ください。
3. 受講決定につきましては、決定次第（締切日以降）送付いたします。
なお、講義内容等の一部が変更になることもありますので、予めご了承ください。
《送付書類》 受講決定通知 受講案内 研修会の日程表 など

泊

領 収 書

「受講料」の領収書につきましては、お支払い（現金）と引換えに発行いたします。
なお、通常の宛名は、勤務機関名を記載しますが、希望する宛名がある方は、「中央研修会受講申込書」の「領収書の宛名」の欄にご記入ください。

昼 食

受講生の研修期間中の昼食は、当財団で用意いたします。

修 了 証 書

研修会の全日程を受講された方に修了証書を交付いたします。

研 修 会 初 日

各研修会の初日に、受付・開講式・オリエンテーションを行います。
なお、概ね次のとおりとなりますが、時間等が変更になる研修会もございますので、その際には受講決定通知に同封する「受講案内」にて、お知らせいたします。

受付 9:00～9:30 開講式 9:30～9:50(オリエンテーション含む)
講義 10:00～

交 通 ア ク セ ス

お越しになる際の交通手段については、公共交通機関等をご利用ください。
なお、車のご利用はご遠慮ください。

会場の最寄駅は、宇都宮線の「自治医大駅」です。
自治医大駅東口から、徒歩約8分となります。
詳しくは、「会場への交通」（裏表紙）を、ご参照ください。

平成18年度中央研修会 のご案内

18年度中央研修会のご案内は、平成18年4月初旬ごろに発送予定です。

ホームページ

当財団の事業概要及び中央研修会・現地研修会の詳細が、ホームページに掲載されておりますので、是非ご覧下さい。

URL = <http://www.jichi.ac.jp/fdc/>

平成17年度中央研修会受講申込書 (後期)

希望研修会 ○を付けて ください		第29回看護師長研修会		第26回保健活動研修会
		第13回救急医療研修会		第10回在宅リハビリ研修会
		第27回放射線技師研修会		第88回臨床医学研修会
		第7回健康教育・ヘルスプロモーション研修会		

受講者	ふりがな				(男・女)
	氏名				
	生年月日	年 月 日 (歳)			
勤務 機 関	ふりがな				病床数
	名称				
	住所	〒			
	所属		職名(役職)		【自治医科大学卒業生】 年卒業 (期生)
	職種(資格)		経験年数	年	
	電話番号	— — (内線)			
	F A X	— —			
メールアドレス	* Eメールにより情報交換を行いたい方は、職場のメールアドレスをご記入ください。				
領収書の宛名					

研修会受講申込みに係る連絡先

ご連絡方法 * ご都合のよろしい方法を選択の上ご記入願います。

1 電話番号

2 メールアドレス

3 FAX

その他・ご要望

上記のとおり申込みます。

平成 年 月 日

(財) 地域社会振興財団 理事長 様

(備考) 複数お申し込みの際には、この様式「平成17年中央研修会受講申込書(後期)」をコピーしてご使用ください。

個人情報の取り扱いについて

研修会受講申込書に記載された皆様の個人情報は、当該研修会にのみ使用させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

また、この中から、受講者名簿として必要な情報を掲載し、研修会初日に全受講者に配布させていただきますので、併せてご了承をお願いいたします。

平成 17 年度 中央 研修 会 一 覧 表

[illegible]